



学校だより

横浜市立六つ川台小学校

令和2年6月30日

7月号

URL:<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/mutsukawada/>
E-mail:y3mutukd@edu.city.yokohama.jp

「六つ」の「かわ」らぬ「だい」じなこと（前編）

校長 本間 明

6月から学校が再開されました。私は朝と帰り校門に立ち、子どもたちを出迎えたり見送ったりしています。授業時間中は、各教室で学習に取り組んでいる子どもたちの姿が見られます。休み時間は、元気に外遊びをしている子どもたちの声が校庭に響いています。7月からは給食も始まります。少しずつ学校生活のペースが取り戻されてきつつありますね。

今回から2回にわたって子どもたちに大事にしてほしい6つのことについて、書いていきたいと思えます。今回は入学式、そして始業式で、子どもたちに話した3つについてです。

その3つとは、返事、挨拶、始末です。この3つは、明治生まれの日本の教育家、森信三氏が唱えた「しつけの3原則」と言われているものです。

まず、返事。入学式の時、私が「六つ川台小学校1年生の皆さん」と呼びかけると、1年生たちから「はい」と元気な返事が返ってきました。入学初日だというのに、とても立派でした。教室で授業中に先生から呼ばれた時でも、家でおうちの人から呼ばれた時でも、遊んでいて友達から呼ばれた時でも、「はい」「今行くね」「何かな」等と返事をできるとすばらしいです。

次に、挨拶。入学式の時、「入学おめでとうございます」との私の言葉に、「ありがとうございます」の言葉が返ってきました。またまた立派でした。学校再開後は校門で私と元気に挨拶を交わしてくれる子がたくさんいます。挨拶の言葉はいろいろですね。朝ならば「おはようございます」、食事の時は「いただきます」、お礼の時は「ありがとうございます」。1年生たちはみんな答えられました。この挨拶を、いつでも誰れにでもできるといいですね。先生に対して、おうちの人に対して、友達に対して、あるいは地域の方々に対して、挨拶を心がけましょう。「挨拶」には「ひらく」、「挨拶」には「せまる」という意味があります。挨拶とは、相手に対して自分の心を開き、近づいていくことなのです。

最後に「始末」。片付けることですね。子どもたちには始末の例として「靴をそろえること」を挙げました。家に帰って外靴を脱いだら、必ずそろえましょう。また、トイレでスリッパを使っているおうちでは、用を足した後、使ったスリッパをそろえましょう。この学校だよりで始末の例をもう一つ挙げます。それは「椅子を入れること」です。食事や勉強を終えて席を立つ時、座っていた椅子を入れましょう。ファミレスやファーストフード店などで食事をした時も、椅子を入れてからお店を出きましょう。ぜひ、小学校を卒業するまでに、六つ川台小の子どもたちに身に付けてほしいと願います。

「しつけ」とは漢字で「躰」と書きます。しつけとは「身」の「美しさ」ですね。返事、挨拶、始末がしつけられた人は、立ち居振る舞いが美しい人です。

明治以来、アフターコロナの新しい生活様式が始まった令和の今の時代でもそれは変わりません。